事例10:「作った色水を移し替えよう」 5歳児(7月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連
❸協同性　❻思考力の芽生え　❼自然との関わり・生命尊重　❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚　❾言葉による伝え合い　❿豊かな感性と表現

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

試す　相談する
友達の考えを取り入れる
素材や材料を工夫する
自分のやりたいことへ向かう
素材を見付ける
素材を選ぶ

これまでの姿

・ビニル袋を使ってA児とB児が朝顔の花で色水を作っていた。試行錯誤するうちに花を揉むと、だんだん色に変化が出てくることに気付いた。

◎ねらい〇内容

◎身近な素材に興味や関心をもち、特性を知り、試したり工夫しながら遊びに取り入れて楽しむ。
〇ペットボトル、ざる、じょうごなど道具を使い、試したり工夫したりしながら色水を混ぜ合わせ作っていく。
〇アサガオの花から色がつくことや、水の不思議さに気付いたり、色の変化に興味をもったりする。
〇感じたことや考えたことを友達と一緒に共有しながら、イメージを膨らませ遊びを進める。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★環境の構成　〇保育者の関わり
A児は、❼❽自分で育てたアサガオで色水を作り、ビニル袋に入れた。A児は他の容器に移そうと「何か他の入れ物ないかなあ」と言うと、B児が近くにあったジョウロを持ってきた。❻A児は色水の入ったビニル袋からジョウロに移し替えた。次にA児は、ジョウロから近くにあったペットボトルに色水を入れようとした。❸❾A児が「うまく入らない。何かいい方法ない？」と言うと、B児が 道具棚からじょうごを見付け、「これ(じょうご)を使ったらいいんじゃない？」と言った。A児は「それ、それー」とジョウロに残っていた色水をじょうごを使ってボウルに注ぎ始めた。すると、じょうごに花びらが詰まって色水が出なくなった。A児が「水が出なくなった」と言うと、B児は道具棚を見渡し、ざるを持ってきた。A児は❿「これでやってみる！」と笑顔でボウルの中にざるを重ね、ジョウロに入った色水を注いで泡立て器でかき混ぜ始めた。何回かかき混ぜるうちに、ざるの目に花が引っかかることや、色水だけがボウルに落ちていくことを発見した。	★必要な場や用具(ペットボトル、ビニル袋、カップ、すり鉢、すりこ木、ざる、じょうご等)を用意しておき、友達と思いや考えを伝え合いながら、繰り返し使ったり、多角的に考えて遊ぶことの楽しさを感じられたりするようにする。 〇道具の形や物の特性に気付いたり、友達と一緒に試したり挑戦したりする姿につながるよう、保育者は近くで見守る。 〇道具棚に置いていない道具で試したいことややりたいことの相談があれば、一緒に考えたり、方法を提案したりする。

遊びや学びのプロセス（10の姿）

「色水の移し替え」遊びのプロセス

道具の特性に気付き、道具を工夫して使い始める

○道具棚に置いている物以外に試したり挑戦したりしたい相談があれば、応じる。

道具の特性に気付き始める

★試行錯誤できる場と時間を確保する。

身近な道具を使ってみる

★試すことができる用具を準備しておく。

❻思考力の芽生え
色水を色々な容器に移し替える中で、それぞれの道具の性質や仕組みなどに気付いたり、考えたり、工夫したりするなど、多様な関わりをしている。また、友達の提案を受け入れ、新しい考えを生み出す喜びを味わっている。

❼自然との関わり・生命尊重
自分達で育てた朝顔の花が、水にぬれるとどのような色になるか好奇心をもって関わっている。

❸協同性
共に遊ぶ中で、相手の思いを受け止め、実現できるよう提案し、友達の役に立つ喜びを感じている。

❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ビニル袋やジョウロ、ペットボトルやじょうご等それぞれの性質や仕組に気付く体験の積み重ねが、ゆくゆくは自分達の遊びや生活の中で適当な物を使うことができるようになる。

❿豊かな感性と表現
色水を色々な容器に移し替えたいというありのままの気持ちが声や表情、身体の動きになって表れている。考えたことに対して必要な道具を選んで表現する過程を楽しんでいる。

❾言葉による伝えあい
友達の気持ちや状況に応えられるよう、言葉と共に具体的な道具を見せながら伝えている。

小学校教員の気付き

◆困ったり、どうしよう考えたりすることで学びが始まる。そのためにも、小学校でも自由に**いろんな考えを試すことができる環境作り**がとても大切だと感じた。

◆困ったときに教師がすぐに手を差し伸べるのではなく、友達同士で考えを出し合ったり、試したりできるように**そばで見守り、子ども達に任せる**ことも大切だと感じた。

保護者への発信ポイント

◆“こうしてみたい”と思いをもってやり始めたことを**保護者も一緒になって楽しんで見守って**ください。助けたくなっても、**子供の力を信じて見守ることでいろんな気付きが生まれます**。子供が発見したときに**褒めたり、認めたりすることで、自信につながります**。幼児教育を行う施設として育みたい資質・能力を一体的に育んでいることを「育みたい資質・能力」の図やその中の言葉から、**具体的に分かりやすく伝える**といいですね。

事例11:「お店屋さんごっこをしよう」 5歳児(11月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連
❷自立心　❸協同性　❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚　❾言葉による伝え合い

これまでの姿

・子ども達は木の実や小枝などの自然物集めをしたり、それらを使ってレストランごっこや製作遊びをしたりとこの季節ならではの遊びを友達と一緒に楽しんでいた。
・火曜市での買い物の経験から部屋でもお店屋さんごっこで売り買いを楽しんでいた。また子ども達がイメージを伝え合い役割を分担して一緒に遊びを進めていた。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

遊びが広がる
クラスの色々な友達とつながりをもつ
役割を見付ける
友達と協力する
話し合う
役割分担をする
友達の考えを取り入れる
共通の目的を見い出す
自分らしさを発揮する
経験を活かして再現する
何度も挑戦する
満足感を味わう
素材を選ぶ
素材を見つける
本物らしさにこだわる

◎ねらい〇内容

◎秋の自然に興味・関心をもちながら、友達と一緒にイメージを膨らませて遊ぶ楽しさを味わう。
〇身近な秋の自然物やいろいろな材料を使って製作をしたり、遊びに取り入れたりしながらお店屋さんごっこやレストランごっこなどをする。
〇友達同士で思いや考えを伝えたり受け入れたりしながら、助け合って作る。
〇文字やものの形に興味をもち、まねて書いたり工夫して飾ったりする。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★環境の構成　〇保育者の関わり
❷❸A児が「レジも作ったよ」とレジを持って来た。するとB児が「そしたらお金もいるね～」「僕、これで作る」とペットボトルのふたを持って来た。他児も「僕も！」「私は紙のお金を作ろう」と色画用紙でお金を作り始めた。 ❽「このお金、0がいっぱいだよ」「0がいっぱいやと高いから長い紙がいる」と話しながら作った。また空箱を使って思い思いの財布を作り、できたお金を入れた。 お金を作ったK児は、お店屋さんに行って❷❸❽❾「ドーナツください」と言うと、店員のC児が「は～い」とドーナツをトレーに入れて持って来た。すると、レジにいたD児がC児に「袋にいれんといかん」「袋に入れるから待ってね」とあらかじめ作っていたお持ち帰り用の袋に入れて渡した。お金を払うとレジにいたD児とA児が「おつり、おつり」とレジからおつりを出そうとして「これくらい？」「もっといる？」と話しながらおつりを渡していた。	★お店屋さんごっこに必要な素材(木の実や枝・落ち葉、段ボール紙等)や道具(ペン等)を幼児が取りやすい場所に準備しておく。 〇“お金だから紙”等といった大人の固定概念ではなく、子ども達の豊かな発想や主体的に取り組む気持ちを大切に、困ったときには相談にのったり、全体に共有したりする。 ★友達同士で共通の目的をもって、役割分担をしたり、思いや考えを出し合って遊びを進めていけるよう、お店屋さんと製作場所の位置関係を工夫する。 〇★子どもが試行錯誤しながら自主的に取り組んでいる時は、次の活動時間を変更する等、十分な時間を確保したり、納得できるよう配慮したりする。

「お店屋さんごっこをしよう」
活動のプロセス

お店屋さんごっこのやりとりや、役割分担をしながら遊ぶ姿

〇満足いく時間の配慮をする。

★遊びの場（位置関係等）を工夫する

友達と一緒に思いや考えを伝えながら、作ったお金を使って遊ぶ

〇自分達で遊びを進める楽しさを味わえるよう、見守り、必要なときには相談に応じる。

★様々な素材を身近に置く。

お店屋さんごっこでお金が必要なことに気付き、どんなお金がいいか考え、作り始める

遊びや学びのプロセス（10の姿）

❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
数字に0をたくさんつけると金額が高くなるという事を友達と考えながら書いている。
0が多いのは紙のお札であるという事を生活体験の中で認識している。

❸協同性
友達と一緒に共通の目的に向かって遊びに必要なお金や財布などを試行錯誤しながら作っている。

❸協同性
お店屋さんごっこでレジ係や品物を運ぶ人、買い物をする人など自分達で役割分担をして楽しんでいる。

❾言葉による伝え合い
より本物らしいお店のやりとりになるように、自分なりに考えたことを友達に伝えたり、よりよい方法を考えたりしながら遊びを進めている。

❷自立心
自分でイメージして作ったレジやお金などを使って遊びを広げていくことで満足感や達成感を味わっている。

小学校教員の気付き

◆1つの目的に向かって協同している時に、**必要以上に保育者が援助に入っていない**。子供の主体性を育むにあたって**“待つ援助”の大切さ**を感じた。

◆お金を作る過程で「これはこうでないと」と**固定概念をもって関わるのではなく**、子供の発想や思いを大切にする関わりや、それを**実現できる環境がある**のがいいなあと思いました。

◆お店屋さんごっこをするにあたり、子供の様子を見ながら、**必要な物を事前に準備**している。**必要な時にすぐに掲示できる環境**を準備するには個々の子供の動きやつぶやきをよく聞いているからだと思う。

保護者への発信ポイント

◆保育者に頼ることなく子ども同士で試行錯誤しながらお店屋さんを**より本物らしく楽しむ姿**が年長さんらしいです。このような**これまでの経験を活かして**、豊かな発想から遊びが深まっている年長後期の育ちを**具体的なエピソードや写真を交えて**、伝えていくといいですね。

事例12:「お客さんによく見える看板にしよう」 5歳児(12月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連
❷自立心 ❸協同性 ❹道徳性・規範意識の芽生え ❻思考力の芽生え ❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ❾言葉による伝え合い

これまでの姿

・11月末から小さい組を客に招き、店員になりきってお店屋さんごっこをして遊ぶ姿が見られた。
・小学校の1年生との交流活動で、おもちゃ祭りに参加し、店番や好きなコーナーで的入れやくじ引きをして楽しんだ。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

クラスの色々な友達とつながりをもつ
遊びや生活の集団が広がる
これまでの経験を生かす
満足感を味わう
クラスの仲間と力を合わせる
自分の力を発揮する
友達と気持ちを通わせる
イメージや考えを交流する
失敗しても諦めない
本物らしさにこだわる
イメージを膨らませる
経験を生かして再現する

◎ねらい〇内容

◎友達と思いや考えを伝え合いながら、イメージしたものを実現させていくことを楽しむ。
〇友達同士でイメージを共有し、提案したり、受け入れたりしながら協力して作る。
〇いろいろな材料や道具を使い、試しながら製作する。
〇本物らしく作ろうとし、細かなところに気付いて丁寧に作る。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★環境の構成 〇保育者の関わり
アクセサリー屋さんの2人は、お店に看板が必要であることに気付いた。❸水色と青の画用紙を貼り合わせて丸く切り、そこに鉛筆で店名とお店のイメージに合った絵を描いた。「先生できた!」と満足した様子で言いに来た。保育者は、お客さんにとって2人が作った看板が役割を果たしているのか自身の気付きを大切にしてほしいと願い、少し離れたところから看板を見てみるよう提案した。2人は、看板を遠くから見て、次第に❻❾「あー、でも青い方は見えん。」「(色画用紙の)色が濃すぎた。」「うさもも(1、2歳児)の人達が見えんかもしれん。ペンで書く?」とA児が言った。❹❻❽❾どの色にするか話し合い、B児が「あったかい色にしたい!」と言い、黄色のマーカーで鉛筆書きの上をなぞった。離れて見てみるとまだ見えにくく、A児が黒のマーカーでなぞってみてはどうかと提案した。離れた所からでもよく見えることを確認し、❷お客さんにとってよく見える看板が作れたことを満足そうにしていた。	★思いを形にできるように看板作りに必要な素材(色画用紙、色紙、木工ボンド、段ボール片、モール、自然物、木の実、落ち葉など)を十分準備し、製作スペースを広く取るようにする。 〇子ども達の考えている看板に近い画像をICTを使って提示したり、話し合ったことを図にしたりすることで、イメージをより具体化できるようにしていく。 〇子ども達の思いやアイデアを受け止めながら、お客さんによく見えるように、工夫したり確認したりする中で、達成感が味わえるような言葉掛けをする。

「お店屋さんごっこの看板作り」
活動のプロセス

共通したイメージの実現

〇お客さんの立場になって看板を見るよう提案する

〇必要に応じてICT機器を使いイメージの共有をする

友達と一緒に作る・調べる

★必要となりそうな素材を準備する

★スペースを広く取る

どんな看板がいいか考える

遊びや学びのプロセス（10の姿）

❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
「大きい」「丈夫」「見やすい」「おしゃれ」など看板に必要な要素に気付き、おきゃくさんにとってよく見えるように作ろうとする。

❹道徳性・規範意識の芽生え
お客さんのことを意識した看板を作る。

❸協同性
お客さんにとってよく見える看板を作ることを目標に、子ども同士でイメージをすり合わせ、工夫しながら作ろうとする。

❷自立心
友達と看板作りという共通の目的に向かって工夫し、諦めずにやり遂げる満足感を味わう。

❾言葉による伝え合い
よりよい方法を考え、話したり、一人が離れて看板を持ち「見える？」と確認したりしながら製作を進める。

❻思考力の芽生え
鉛筆や黄色のマーカーで書いた文字の見えづらさに気付き、どの色で書いたら見えやすいかなど話し合いながら試行錯誤する。

小学校教員の気付き

◆子供達が話し合う中で、案を出し合って工夫していくことで**納得のいく看板**が仕上がっている。このような活動は、小学校でも引き継いでいきたい。

◆一緒に作っていく中で、
・思いを出し合って
・**相談**しながら
・**葛藤**しながら
・**折り合い**をつける。
小学校で大切にしている力の基礎を培っているなと思いました。

保護者への発信ポイント

◆子供達同士が話し合う中で、例えば、２人で話し合い、案を出し合うことでよりよいものを協力して作っている。これは**相手の気持ちに気付いたり取り入れたりする**ことや、**コミュニケーション能力**、**協同してよりよい物を作る力**を育んでいる等、**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（③協同性）を発信ツール**の1つとして伝えていくのもいいですね。

事例13:「発表会の劇作りをしよう」 5歳児(12月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連
❸協同性　❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚　❾言葉による伝え合い

これまでの姿

・これまでの発表会を振り返る中で「お母さんをびっくりさせたい！笑わせたい」「絵を描きたい」また、昨年見た保育者の出し物の顔出しパネルの印象も残っていたことから「顔出しパネルをやってみたい」等の意見が出た。そして劇を顔出しパネルでやってみようと決まり、物語を選ぶことになった。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

クラスの色々な友達とつながりをもつ
遊びや生活の集団が広がる
これまでの経験を生かす
満足感を味わう
クラスの仲間と力を合わせる
自分の力を発揮する
友達と気持ちを通わせる
イメージや考えを交流する
失敗しても諦めない
本物らしさにこだわる
イメージを膨らませる
経験を生かして再現する

◎ねらい〇内容

◎友達と協力しながら、共通の目的に向かって取り組む楽しさを知り、やり遂げる充実感を味わう。
〇お家の人を驚かせたいなどの目標をもち、そのためにどうすればよいか考える。
〇友達と一緒にしたり助けてもらったりしながら、みんなで作り上げた喜びや、一緒にやり遂げる仲間がいることの喜びを感じる。
〇発表に必要な物や道具を自分達で準備したり、道具を適切に使ったりする。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★環境の構成　〇保育者の関わり
図書室に物語を選びに行った。選びに行く前に❸❾「描きやすい絵にしよう」「知っているお話がいいな」と話し合った。馴染みのある昔話や童話などを中心に選び、多数決で「ももたろう」をすることになった。 配役を相談し、「僕は犬が好きだから犬役をやりたいな」と話し合っていく中で、A児から❽「そうだ！紙に書いたら忘れんね」と提案があり、役名と名前を書き出していくことになった。 配役が決まると、ボール紙を用いて自分の配役の絵を描いていくようにした。大きなボール紙に大きく描くことに苦戦していたが、❾❿「ここはこうやって描いてみたらいいで」と指で弧を描きながらアドバイスしたり「もうちょっと膨らんじゅうで」と言葉で知らせたりしていた。また、絵本の色と同じように塗りたいが、何色と何色を混ぜるといいか分からない時には保育者に尋ねていた。 パネルの絵もできあがり、練習が始まった。「ももたろうは鬼退治に行くから歩くように（パネルを）動かそう」「鬼は恐くセリフを言うといいよね」とパネルの動かし方やセリフの言い方などを考え、友達同士で伝え合っていた。	〇互いの考えや思いを伝えたり聞き入れたり、話し合ったりできるよう、昨年度の写真を見せたりホワイトボードに考えを書いたりし、子ども達が主体的にやり取りできるようにする。 ★様々な物語に触れることができるように、図書室へ絵本を選びに行く。 ★子どもがイメージしていることが達成できるように、必要な材料や道具を準備しておく。 〇みんなで1つのものを作っていくという意識がもてるように、子どものイメージを大切にしたり、自分や友達の良さに目が向けられるよう、友達にアドバイスしている姿を褒めたり、他の子どもに絵のよいところを伝えたりする。 ★描きたい時間に思い切り絵を描くことができるよう、広いスペースや時間の確保をする。 ★劇で子どものやりたい動き等ができるよう、十分な広さの部屋を確保する。慣れてくると舞台も用意する。

「劇作り（顔出しパネル）」活動のプロセス

共通の目的に向かって、友達と劇作りを楽しむ

★やりたい動きができるよう十分な広さを確保する。

〇子どもの提案や良さを言葉で伝え、広げる。

劇に必要なパネル作りに取りかかる

〇配役を書くための紙を用意する。

〇図書室へ行くよう提案する。

物語を何にするか考える

★互いの顔が見えるように座り、可視化物やホワイトボードを使用する。

どんな発表会にするか伝え合う

遊びや学びのプロセス（10の姿）

❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

配役を書いておくと確認できることに気付き、活用する。

❸協同性

どのような発表会にするか互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的が実現する喜びを味わう。

❾言葉による伝え合い
❿豊かな感性と表現

絵を大きく描くことに苦戦している友達の様子からどうしたらよいか言葉や身振りで伝えたり、表現したりしている。

小学校教員の気付き

◆**子供達のやりたい思いを大切に**しながら、**劇を成功させようという1つの目的に向かって**取り組む中で、**自然と友達同士の関わりが生まれたり、新たなアイデアが浮かんだりしている**ことを10の姿を手がかりに小学校の教員同士共有したいと思います。

◆子供達のやりたいと思う気持ちを大切にし、**子供同士が話し合い協力し合って取り組んでいる。この話し合い活動を小学校でも活かし**たい。

保護者への発信ポイント

◆友達と絵を描く、色を塗る等、活動の1つ1つのやりとりの中で、**指で弧を描きながらアドバイス**したり、「**もうちょっと膨らんじゅうで**」など、**数量や図形に対する感覚、表現力が培われている**ことを具体的に伝えていきましょう。

事例14:「『手伝ってくれてありがとう』って思ってもらおう」
4・5歳児混合クラス　5歳児(2月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連
❶健康な心と体　❷自立心　❸協同性　❹道徳性・規範意識の芽生え　❾言葉による伝え合い

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

達成感を味わう

就学にあこがれや期待感をもつ

自分なりの課題を考えてやり遂げる

自信をもって生活する

友達のよさを認め合う

異年齢に伝える

自分たちの成長を感じる

これまでの姿

・3学期に入り、自分達の午睡がなくなったため、3チームに分かれ、小さな組(1, 2, 3, 4歳児)が午睡から起きる時間帯に手伝いに行くことにした。なかなか勇気が出なかった子供も思い切って声をかけたり、優しく頭を撫でたりする姿が見られるようになった。そこで、この日手伝いに行く前に、これまでの手伝いを振り返るひと時をもった。

◎ねらい〇内容

◎年長児としての自覚をもち、自分の成長を感じ充実感を味わう。
　〇自分の思いを言ったり友達の気持ちを受け入れたりして心を通わす。
　〇小さな組の友達の午睡後に関わったり布団の片付けの手伝いをしたりする。

遊びの様子(番号:10の姿との関連)	★ 環境の構成、〇保育者の援助
保育者が「お手伝いに行ってみてどうだった？」と問いかけると、❹「『布団畳むき下りて』って言ったら、すぐに下りてくれるよ」「起こすときは優しく頭をなでてあげたらいいで」「服って人に着せたら、前後ろが分からんなるがよねー」「A くんは起こそうとしたら怒るがって…」等の話が出た。するとB児が「Aくん怒るって言うけど、僕が行ったら怒らんで。❾気持ちを気持ちよくしちゃったらいいがで」と言った。「気持ちを気持ちよくって、どういうことかな？」と保育者が尋ねると、C児が❾「優しい気持ちで起こしに行ったらいいね」 D児は❾「手伝ってくれてありがとうって思ってもらおう」 と言った。他の子供も次々に❸❾「それいいね」と言い、その言葉がクラスの目標となった。さらに、C児は❷「チームの2人が着替えの手伝いに行くき、僕は布団を畳みゆう」 と言った。 その日、C児は❶❷❸「今日も布団は僕に任せて。DとEはパジャマを着替えさせちゃって」と友達に向けて自分の思いを伝えた。❶それを聞いたD児は着替えが終わっていない小さな組の友達を気にして手伝いに行き、丁寧にパジャマを畳んだ。	★一つの机を囲むようにして集まり、互いの顔を見ながら意見を聞いたり、思ったことが言えたりするような雰囲気作りをする。 〇友達の考えを聞き、理解したり共感したりしながら自分の考えを深め、具体的な経験に繋げていくことができるように言葉を足したり思いを引き出したりしていく。 〇子どもが思いを共有し、共通の目的に向かってやり遂げ、満足感をもつことができるように、一人一人を認めていく。 ★話し合った内容を異年齢の保育者に伝え、5歳児の主体的な活動を促し、自信に繋がっていくようにする。

「小さな組の手伝いをする」
活動のプロセス

役に立つ喜びを感じ、充実感・満足感を味わう

友達と思いを通わせ、共通の目標をもつ

〇思いを引き出す投げかけをする。

話し合いの中で、自分の気持ちを伝えたり、友達の思いを聞いたりする

★互いの顔が見えるよう集まり、思ったことが言える雰囲気作りをする。

〇小さい組の世話についてクラスみんなで振り返る時間をつくる。

小さな組の世話をする

遊びや学びのプロセス（10の姿）

❶健康な心と体
充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を動かしている。

❶健康な心と体
午睡や衣服の着脱の必要性が分かり、小さな組の友達に関わっている。

❷自立心
手伝いにはいろいろな役割があることを知り、自分の役割を自覚し、やり遂げようとしている。

❸協同性
みんなで話し合った手伝いに対する共通の目的の実現に向けて、役割を分担したり協力したりして、取り組む楽しさを味わっている。

❹道徳性・規範意識の芽生え
小さな組の友達の思いを想像し、優しい気持ちで行動している。

❾言葉による伝え合い
経験したことを言葉にして伝えたり、友達の話を理解して聞いたりと、伝え合う楽しさを味わっている。

小学校教員の気付き

◆入学してくる1年生に何でも教えてあげないといけないと思いがちだが、**園で共通の目的に向かって経験してきている**ことを知り、小学校でも学びをつなげていきたいと思った。

◆**自分達で目標を決めるという経験を年長から積み重ねている**ことを1年生のスタートからどのように活かすかが大切だと感じた。

◆やってみないと相手の気持ちが分からないことはたくさんあります。**その都度振り返り**ながら、相手の気持ちと向き合って、次のよりよい方法を考える活動を小学校でも大切にしたいと思いました。

保護者への発信ポイント

◆小さな組と関わりをもつことで、**相手の気持ちを考えて行動する姿**が見られています。**年長児同士で共通の思いをもって自分達にできること**を、**写真などを使ったドキュメンテーション**などで具体的に伝えていきましょう。

事例 15

生活科：きれいにさいてね 「たねをまこう」

関連する 10 の姿：❷自立心 ❼自然との関わり・生命尊重 ❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ❿豊かな感性と表現

参考　東京書籍「あたらしいせいかつ上　教師用指導書授業展開編」 たねをまこう

実施時期	1学年4～5月【スタートカリキュラム『わくわくタイム』合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習活動の時間】

☆思いや願いをもつ

幼児期や日常での栽培経験について話しながら、育てたい花を話している。

保育園の時はね、おいももなすも育てたよ。

ふうせんかずらのふうせんのかたちがおもしろいね。

家がユリ農家でおじいちゃんが育てているのを時々手伝っているよ。

❷自立心
自分の種や鉢に思いをもって、これまでの経験や話合いで得た知識から考え、育てようとしている。

図書室で作業できるように図鑑や花の本を確認・準備しておく。

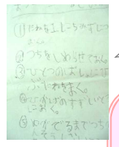
同じ花を選んだ友だちと協力して植え方を調べたり、模造紙に書いたりしている。

☆経験を生かす

校長先生に聞いてみよう。

タブレットも使って調べよう。

この字はどうやって書いたらいいのかな。



お家の人に聞いたメモ

❽数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
図書室の本や図鑑を見て、調べて分かったことを書こうとしている。

自分の調べたやり方で、友だちと協力しながら種まきをしている。

活動や体験をする

○子供の発見やつぶやきを認めたり評価したりする。

同じ花のチームで協力しようね

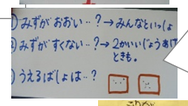
★目に触れやすい日なたなど、自ら関わる意欲が続く環境を作る。

日があたるところにおきたいな。

まくときは、じゅ文をいうといいよ。

感じる・考える

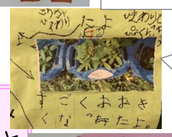
なんでふうせんかずらだけめが出ないのかな？



めが出ない理由をみんなで考え、友達のアドバイスをもらって水につけてから植えなおしたよ。

日々のお世話を通して、自分や友達の花の成長やちがいに気付いたり、変化に疑問をもったりしている。

○発達に応じた表現や関わりを取り入れることで、一人一人が主体的に対象に関われるようにする。



百日草の中にひまわりの葉っぱがまざってる！

表現する・行為する

❼自然との関わり・生命尊重
花の成長を楽しみに関わることで、日々の変化に気付き、必要な世話を考えようとしている。

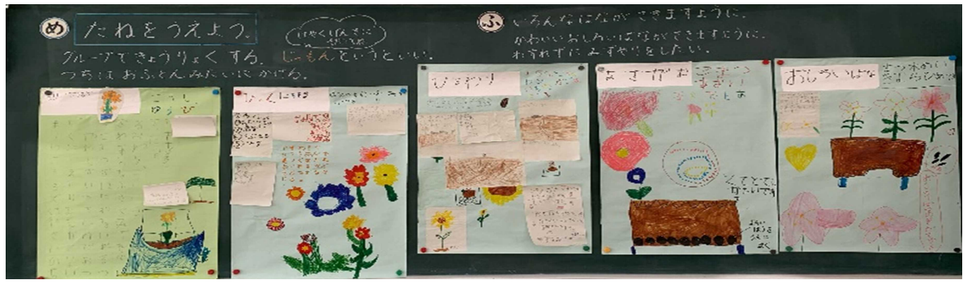
自分の花に名前を付けるなど、思いをもって毎日関わることで、様々な気付きが生まれ、タブレットで写真を撮ったりカードに絵や言葉で表したりする。

❿豊かな感性と表現
自分だけの花の鉢や種を喜び、これから育てようとするアサガオへの気持ちをつぶやいたり、友達のつぶやきをまねたりしながら、絵や文字で表現しようとしている。

めざす子供の姿　｜　遊びや学びのプロセス（10 の姿）　｜　○先生の関わり　｜　★環境づくり　｜　※架け橋期のカリキュラム参照

児童の姿	・自分たちが選んだ花の種について、それぞれが調べた植え方で種をまこうと活動に期待をふくらませている。
本時の目標 教科	・幼児期や日常での経験に思いを巡らせて、自分選んだ花の種をまく活動を通して、植物に親しみをもち、大事にしようとする。 ☆生活3・4／10 時間　内容項目（7）
評価規準 **主に関わる 10 の姿**	・幼児期や日常での経験に思いを巡らせて、育てる植物を決めたり、種のまき方を決めたりしている。生活【思・判・表】 **❷自立心 ❼自然との関わり・生命尊重 ❿豊かな感性と表現**

展開・主な学習活動（児童や担任の発言）	○指導上の留意点　＊接続期に応じた指導の工夫	教科【資質・能力】具体的な姿（評価方法）
思いや願いをもつ **1　種を観察し、花の成長を想像する。** マリーゴールドの種は水につけておいたよ。早くさくといいな。 花によって種の形や大きさが違うね。	○自分たちが調べた種のまき方を書いた模造紙を掲示したり、アサガオや他の種に触れて比べたりして、栽培への意欲が高まるようにする。 ○種を観察させ、色や形、大きさなどの特徴についてのつぶやきを板書する。	
経験を生かす **2　種まきの仕方をチームで確認する。** 鉢の底に石を入れるといいって聞いたよ。 おばあちゃんちの花畑のヒマワリがすごく大きくなったよ。楽しみだな。	**チームできょうりょくして自分のたねをまこう。** ＊発達に応じた表現も取り入れながら、思いや願いがもてるようにする。 ○児童一人一人が自分なりの方法を考えて種まきができるようにする。 ○児童が自分たちで考えて活動できるよう、見守る。	
感じる・考える **3　種まきの仕方を確認しながら種をまく。** ○○さんはこうしたんだって。一緒に聞いてみようか？ めが出るまでは日陰におくといいって聞いたよ。 私は日当たりがいいところにおきたいな。	＊それぞれが活動しやすいように準備をしておき、チームで声をかけ合えるよう見守る。 ○友達同士関わって種まきする姿や、アサガオや種まきへの気付きを認め、周りにも広げる。 ・近くに1つずつ全部まいたよ、楽しみだな ・○○くんと日なたを探して置き場所を決めたよ ○種まきの様子を振り返り、発表する。 ・○○さんと一緒に種まきして楽しかったよ ・「おしろいばなさん大きくなってね」ってじゅもんを言いながら水やりしたよ	生活【思考・判断・表現】 「保育園では当番がお水をあげていたよ」「芽が出るまではたっぷり水をあげるよ。」など、幼児期の経験や調べたことを話しながら、協力して種をまいている。（行動観察、発話）
表現する・行為する **4　種まきの様子を発表したり描いたりする。** かわいい花がさきますように。色々な色の花がさきますように。 ぼくはやさしく土をかけたよ。毎日お水あげるぞ。	＊思いや感触、感覚を想起できるよう、活動時の発話等も投げかける。 ○種まきをしたことをカードに絵や言葉でかく。	



事例 16

生活科：たのしいあきいっぱい「いっしょにあそぼう」

関連する10の姿：❷自立心 ❸協同性 ❺社会生活との関わり

参考 東京書籍「あたらしいせいかつ上 教師用指導書授業展開編」いっしょにあそぼう

実施時期	1学年11月（21 時間）

思いや願いをもつ ▼ 試す・見通す・工夫する ▼ ☆活動や体験をする ▼ ☆感じる・考える ▼ ☆表現する・行為する ▼ 振り返る

どんぐりがたくさん落ちているよ。園ではお店屋さんをして遊んだな。

「秋みつけ」で見付けた秋の自然物をつかって、園での経験からどんなことをしたいか話し合っている。

まつぼっくりでまといれをつくったよ。年長さんと遊びたいな。

１回目の交流会で使ったガシガシハンドをおもちゃにしたら面白そう。

年長児との交流会に向け、ルールや遊び方を工夫するなど相手意識をもって準備を進めている。

年長さんのためにこんなルールもあったら良さそうだよ。

★児童の思いをもとに、活動のめあてや流れをつくり、プログラムなどで掲示し、前回の振り返りを生かした活動につなげていく。

手遊びを一緒にして緊張をほぐそう！

久しぶり！楽しいおもちゃを作ったよ！一緒にお店屋さんもしようね。

おもちゃおもしろかったね！ここでシールをはってもらうよ。名ふだをわたしてね。

○1年生のクラス同士で交流したり、保護者の方に接客したりする中で改善点に気付き、遊びや遊び方を工夫できるようにする。

年長児の表情を見ながら、話し方や説明の仕方を工夫している。

❷自立心
主体的に活動に向かう中で、自分がしなければいけないことに気付き、考えたり工夫したりしながら取り組む充実感を感じ始めている。

❺社会生活との関わり
幼児との関わり方に気付き、その気持ちを考えて関わり喜んでもらうことでさらに親しみをもち、意欲的に活動しようとしている。

○保育者と事前に活動のねらいや流れを打ち合わせ、幼児が安心して活動を楽しめるように、手遊びや評価への協力を依頼し分担する。

相手の立場に立って、してもらうとうれしいことを考え、行動している。

「全部楽しかった」「またやりたい」って言ってくれたよ。うれしいな。

まだあそこに年長さんが見えるよ。ばいばーい！

年長さんとの交流を通して自分の成長に気付いている。

❸協同性
友達と考えた遊びで幼児を楽しませようという共通の目的の実現に向けて、自分ができることや友達のためにしてあげたいことを考え、進んで協力している。

めざす子供の姿 ／ 遊びや学びのプロセス（10 の姿） ／ ○先生の関わり ／ ★環境づくり ／ ※架け橋期のカリキュラム参照

児童の姿	友達と季節の自然に親しみ、自然物を使って遊ぶことや園児との交流を楽しんでいる。
目標 教科	・幼児の気持ちを想像しながら友達と工夫してつくった、身近な自然物のおもちゃで、園児が楽しく遊ぶことができたことに満足感をもち、これからも目標をもって生活を楽しくしようとすることができるようにする。 ☆生活（18・19／21 時間）
評価規準 主に関わる 10 の姿	・友達と遊びを工夫して、園児に楽しんでもらう面白さを実感し、これからも遊びを創り出そうとしている。生活【態度】 **❷自立心 ❸協同性 ❺社会生活との関わり**

展開・主な学習活動（児童や担任の発言）	○指導上の留意点 ＊接続に応じた指導の工夫	教科【資質・能力】評価規準（評価方法）
思いや願いを持つ **1 園児を迎え、始めの会をする。** 久しぶりだね。今日はお店やさんだよ。 	＊園訪問した交流を振り返って思いを持ち、目標や遊びをつくり活動する。 ＊事前にクラス同士で交流したり、保護者に向けてお店やさんをしたり、楽しませるための工夫に気付けるようにする。 ○前回と同じグループで座り、始めの会の手遊びや流れの説明をすることで、園児が安心して楽しめるよう手助けする。 ・児童が進行する始めの会でめあてを確認し、児童が意識して活動したり、認められたりできるようにする ・アイスブレイクは保育者が幼児の好きな手遊びを行う ㊙年長さんも１年生も，もっとなかよくおもちゃまつりを楽しもう。	
活動や体験をする **2 自分のコーナーから園児を楽しませる。** こうやって遊ぶんだよ。コツは・・・。 うまいね！すごいなぁ。 ○○ちゃん次は何をしたい？	＊活動の流れや名前を視覚化したり、活動時間を音楽で知らせたりする。 ○目標を達成するために一緒にお店やさんをしたり、お店を回ったりする。 ・お友だちが来たらこれを渡してね。 ・遊び終わった友達にシールをあげてね ・もっと仲良くなるために今日はたくさん名前を呼ぶよ。 ＊幼児の立場に立って手助けするなど、意欲的な児童を認め声をかける。	
感じる・考える **3 終わりの会で振り返る。** 	○活動をペアで振り返った後、全体での発表や担任相互の評価も行い、楽しかった思いを共有する。 ・一緒に遊べて楽しかった ・年長さんがいっぱい来てくれてうれしかった ・もっとなかとくなれてよかった ・もっとたくさんやりたい ＊担任が児童・幼児を相互に評価し、活動の満足感がもてるようにする。	
表現する・行為する **4 園児の見送りをする。** 	○その場でアイデアを出し合ってお見送りする。 ・一日入学があるから、「また来てね」って言おう ・みんなでアーチを作って下をくぐってもらおう ○児童の思いに任せることで、さらに次の交流への見通しがもてるようにする。 ＊児童の活動への思いを、最後まで発揮できるようにする。	生活【態度】 季節の遊びのよさや友達と遊びをつくる楽しさなど、気付いたことをカードに絵や言葉で表現している。 （作品、行動観察）